

アストンマーティンDBS

DBSはロードカーのDB9とレーシングカーDBR9&DBRS9の間に位置する、スーパースポーツカーです。

ロードカーとレーシングカーの要素の融合したDBSは、これまでの最高峰Vanquish Sよりも軽い車重、より強固なボディフレーム、新設計のサスペンションと相まって、ロードカーとしてアストンマーティン史上最高のパフォーマンスを提供します。



SPECIFICATION

ボディ

- 2ドアクーペ (2シーター)
- 接着アルミニウムVH 構造
- アルミニウム、マグネシウム合金、カーボンファイバー複合材製ボディ
- 押出アルミニウム製ドアサイドインパクトビーム
- 高強度ディスチャージヘッドランプ (ロービーム)
- ハロゲンプロジェクターヘッドランプ (ハイビーム)
- LED リアランプ、サイドリピーター

エンジン

- オールアロイ、クワッドオーバーヘッドカムシャフト(QOHC)、48バルブ V12、5935 cc、圧縮比:10.9:1
- フロントミッドマウント、後輪駆動
- アクティブバイパスバルブおよび触媒付きステンレス製排気システム
- 最大出力: 380 kW (517 PS) /6500 rpm
- 最大トルク: 570 Nm/5750 rpm
- 加速性能 (0-100 km/h) : 4.3秒
- 最高速度: 302 km/h

トランスミッション

- リアミッドマウント6速マニュアルギアボックス
カーボンファイバー製プロペラシャフト付きアロイトルクチューブ
リミテッドスリップディファレンシャル

- 最終減速比: 3.71:1

ホイール&タイヤ

- フロント: 8.5" x 20" ピレリ社製 P Zero 245/35
- リア: 11" x 20" ピレリ社製 P Zero 295/30

ステアリング

- ラック&ピニオン、サーボトロニック車速感応式パワーステアリング、ロックトウロック: 3.0 回転、コラムのチルト・リーチ調整機構

サスペンション

- フロント: 独立懸架式ダブルウィッシュボーン
アンチダイブジオメトリ、コイルスプリング、アンチロールバー、
モノチューブアダプティブダンパー採用
- リア: 独立懸架式ダブルウィッシュボーン
アンチスクアット、アンチリフトジオメトリ、コイルスプリング、アンチロールバー、
モノチューブアダプティブダンパー採用
- TRACKモード付きアダプティブダンピングシステム(ADS)

ブレーキ

- フロント: 径398mm ベンチレーテッド式カーボンセラミックディスク、6ピストンキャリパー付き
- リア: 径360mm ベンチレーテッド式カーボンセラミックディスク、4ピストンキャリパー付き
- ダイナミックスタビリティコントロール (DSC)、トラックモード付き
- アンチロックブレーキングシステム (ABS)
- エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション (EBD)
- エマージェンシーブレーキアシスト (EBA)
- トラクションコントロール

寸法

- 全長 472 cm
- 全幅 191 cm (ドアミラー除く)
206 cm (ドアミラー含む)
- 全高 128 cm
- ホイールベース 2740 mm
- 燃料タンク容量 78リットル
- 乾燥重量 1695 kg (車検証記載重量 1750 kg)

インテリア

- セミアニリンレザー及びアルカンタラ素材のインテリア
- マトリックスアロイフェイスアトリムとイリジウムシルバー仕上げ
センターコンソール
- カーボンファイバー製ドアトリム&ドア引手
- 自動防眩リアビューミラー
- 10ウェイ電動スポーツシート(高さ、チルト、ランバーサポート調整機能付き)
- メモリーシートおよび外部ミラー(3ポジション)
- 運転席および助手席用デュアルステージエアバッグ
- サイドエアバッグ(スポーツシートのみ)
- シートヒーター(スポーツシートのみ)
- ヒーター付きリアスクリーン
- 自動温度コントロール
- オーガニック・エレクトロルミネセンス(OEL)ディスプレイ
- トリップコンピュータ

- クルーズコントロール
- パワーフォールド・エクステリアミラー
- フロントパーキングセンサーおよびリアパーキングセンサー
- アラームおよびイモビライザー
- リモートコントロール・セントラルドアロックングおよびトランクリリース
- バッテリー切断スイッチ
- バッテリーコンディショナー
- トランク搭載のアンブレラ

車内エンターテインメント

- アストンマーティン700 Wプレミアムオーディオシステム Dolby® Pro Logic II®
- MP3 プレーヤー接続可能

オプション

- 6ウェイ電動調節軽量シート(フロント及びリア高さ調整付き、サイドエアバッグ及びシートヒーターなし)
- グラファイト仕上げ20インチアロイホイール
- フェイシアトリム・センターコンソールPiano Black仕上げ
- レザー製ストレージサドル
- パーソナライズドシルブラーク
- 自動防眩リアビューミラー
- アラームのアップグレード (ポリュメトリックセンサーとチルトセンサー)
- 救急箱
- 灰皿、シガーライター



PERFORMANCE

アストンマーティンの工学と技術を最高の形で表現する車—DBS。ハイパフォーマンス走行時の安定性、ハンドリング性能、軽量の車体、それらがDBSのフォルムと構造の決め手になりました。DBSはアストンマーティンが超軽量のカーボンファイバーボディパネルを最大限活用して製造した最初の車です。その高度な性能と操縦性は、独特の軽重量、完璧な重力配分、極めてパワフルでフレキシブルなV12エンジン、そして研ぎ澄まされた高性能6速トランスミッション。さらには新型のカーボンセラミック製ブレーキとダンパー制御によるアダプティブサスペンションシステムを組み合わせることによって生み出されています。

DBSの鼓動、6.0リッターV12エンジン。DBR9およびDBRS9に搭載されている、同一のV12エンジンを改良したこのエンジンは、600馬力以上ものパワーを発生。共通の動力装置は、アストンマーティンのロードカーとレーシングカーを強く結び付けてきました。1950年代から60年代にかけての名車、DB4、DB5、そしてDB6は、レーシングカーDBR1で採用した6シリンダーを備えた動力装置を搭載していました。

アストンマーティンのさまざまな動力装置と同様に、エンジンはドイツのケルンにある専用のエンジン工場にて手作業で組み立てられています。このクラシックな6.0リッターV12エンジンには、最高のパフォーマンスを引き出すための、数々の特徴的な機能が搭載されています。その一例としては、5500 rpm以上になると開いてエンジンにより多くのエアが入るようにする「バイパス」エア吸気口、燃焼室へのエアフローをさらに向上させる再プロファイルされたエア吸気口などがあります。これらの機能が10.9:1という高圧縮比で組み合わせられた結果、驚くべきパワーとトルクを生み出し、DBSでは6500 rpmで380 kW (517PS)を発揮します。

最終減速比を3.71:1にすることにより、動力をさらに引き出すことが可能となり、特に伝動装置の加速度の向上を実現しています。

真のスポーツカーは軽量かつバランスの優れたものでなければならない。軽量で強靱な構造はデザインエンジニアにとって究極の目標であり、強度と質量のバランスを達成することは最も重要なことです。DBSは、DB9やそのベースを共にするレースカーDBR9及びDBRS9と同様、アストンマーティン独自開発のオール合金製VH (Vertical Horizontal - 垂直・水平) 構造を採用しています。クラス最先端を行くこのVH構造は、航空宇宙技術を取り入れた軽量アルミニウム接着構造で、ごく軽量でありながら卓越した強度と剛性を生み出します。また、アストンマーティンのエンジニアは、他にも随所に先進の材料やプロセスを駆使して重量のさらなる軽減をはかり、DBSの性能とダイナミクスを最大限に引き出しています。

その主な特徴は、DBRを冠するレースカーと同様、カーボンファイバー製ボディパネルを広範囲で使用していることです。DBSの場合、トランクのエンクロージャ、トランクリッド、ドア開口部周辺、フロントウイング、ボンネットなどに、カーボンファイバーパネルが使用され、抜群の強度を保持しながら、従来の素材より30 kg以上も軽量化されました。アストンマーティンのデザインディレクターであるマレック・ライヒマンは、「カーボンファイバーを使用する際、フォルムや形に制限はありません。この素材のおかげで、20インチのホイールを包み込むようなボディーワークが可能となり、ホイールとボディとの絶妙なバランスが維持できるのです」と語っています。各パネルは、車周囲のエアフローをエンジンに送り込み、ブレーキシステムの冷却に役立つように設計されたDBSボディラインは、流れるように力強く、均整の取れたフォルムを輝かせています。この独特のフォルムの構築に貢献するカーボンファイバーは、航空宇宙工学やモータースポーツ界で開発された先進の製造技術を駆使して作られています。

新しいパネル製造方式では、特許を取得した「表面ベール」プロセスにより、業界最高の表面仕上げを誇ります。樹脂とガラスからなる200ミクロンの層をパネルに塗布することにより、高品質というアストンマーティンの伝統に沿った最高級クラスの仕上げでお応えしています。車内では、最も調和の取れた表面加工にするために、カーボンファイバー部分の織目模様が厳選されました。

CONTROL

軽量化とその配分はいかなるスポーツダイナミクスにも不可欠であり、その性能のほとんど全てに影響を及ぼします。DB9やDBRレースカーと同様、アストンマーティンDBSは、VHプラットフォーム構造の特徴から特性を発揮しています。VHの台枠はプレス、押出、鋳造が行われたアルミニウム製の部品で構成されており、極めて強固な基本構造を得るために互いに接着されています。その一方で、DBSの外側のボディパネルは軽量カーボンファイバー、複合材およびアルミニウムで製造されています。

DBSの構造は、重量を最小限に抑える一方で、重量配分もほぼ完璧にしています。フロントミッドにエンジンを、リアミッドにトランスアクスルを搭載し、85%の車両重量をホイールベース内に収めています。極慣性モーメントは非常に低くなり、V12エンジンの高出力を支える強靱で安定したプラットフォームに優れた敏捷性を備え、胸躍るようなドライビングを実現する車が生み出されるのです。

DBSは、その極めて正確で強固なプラットフォームを十分に活かすために、新型の高性能アダプティブダンピングシステム(ADS)を採用。ADSは別の2つのバルブを使用して、5箇所の異なる場所にダンパーを設定するもので、乗り心地とハンドリング性能を瞬時に調整することができます。ダンパーは快適性を高めるために「柔らかく」なったり、操作性を高めてより積極的なドライビングができるよう「硬く」なったりします。自動的にサスペンション設定を変更するこのシステムにより、ドライバーは様々な走行条件に即座に対応することが可能となり、常に車がコントロール下にあることを実感できるのです。

ダンパーの設定は、スロットル位置、ブレーキ位置、ステアリングホイールの回転、走行速度などを、電子制御装置が各種センサーで読み取ることによって決定され、このデータが一般的な走行条件と車に関するドライバーの意思を反映させます。

DBSのアダプティブダンピングシステムはこの車のスポーティな性格を完璧に把握しており、「通常の」走行状態における乗り心地が損なうことなく、より高度なハンドリングとコントロールが要求されるエンターテインメントな運転時にはダンパーの設定を瞬時に硬くします。「Track」モードに設定すると、すべてのダンパーが自動的に最も硬いポジションに設定されるので、サーキットでの走行には最適です。そしてDBSにはその優れたパフォーマンスを遺憾なく発揮するために、特別に開発されたピレリ社製P-Zeroタイヤと20インチの軽量アロイホイールが装備されています。

また、走行条件が厳しい時でも最大のトラクションを維持できるよう、DBSには改良が施されたダイナミックスタビリティコントロール(DSC)システムが装着されています。標準の操作では、DSCは自動的にオンになっていますが、ボタンを選択して2秒間押し続けると、DSCの「Track」モードが作動し、経験豊富なドライバーが車の限界を追求できるまで許容限界値を上げます。ボタンを4秒間押し続けるとDSCは完全に解除されます。

この車のブレーキシステムのもう一つの革新的な特徴は、一般道路を走行するアストンマーティンに初めて採用されたカーボンセラミックマトリックス(CCM)ブレーキです。CCMブレーキシステムとして、フロントに6ピストン合金モノブロックキャリパー付きベンチレーテッド式ディスク(径398 mm)と、リアに4ピストン合金モノブロックキャリパー付きベンチレーテッド式ディスク(径360 mm)が取り付けられています。このシステムを搭載した結果、最も過酷な走行条件でも停止距離が短くなり、磨耗に対しても優れた耐久性を示すようになりました。CCMのブレーキは従来のシステムと比べ約12.5 kg軽量化され、車両総重量、特にバネ下重量と回転質量を軽減し、サスペンション性能のさらなる向上に貢献しています。

DESIGN

DBSは最高の素材を使用し、丹念な仕上げの工程と先進ハイテク技術工程を組み合わせ製造されています。その最高品質のデザインや仕上げから、重量を軽減しながら強度を生み出す先進製造技術に至るまで、DBSはインテリア、エクステリアを問わず、技術的傑作であり、視覚的にも感覚的にもパワフルな走りの世界を実感いただけるはずです。

DBSはDBシリーズの最高傑作であり、レースで培われた先進技術とオンロードを走る実用性能が見事に融合しています。その系譜は、象徴的存在であるDB2、DB3S、DB4GTにまで遡り、DBR9とDBRS9に今日まで引き継がれています。DBSの流れるような力強いフォルムは、DBシリーズが本来持っている気品とDBR9 GT1の印象を融合しています。アストンマーティンの他モデルと比べて車体が低く、コンパクトなDBSの、わずかに張り出したホイールアーチの内には、直径20インチのホイールとタイヤを標準装備しています。これにより、優れた走行安定性とグリップ性能が生まれるとともに、DBR9とDBRS9を連想させる筋肉質な引き締まった印象を与えているのです。デザイン工程では絶えず改良が行われるとともに、DBS表面のホーニング仕上げが行われ、形とフォルムがこの車が本来持っているパワーを完璧に表現する一方、すべてのアストンマーティンの真髄である見事なまでの均衡を保っています。

より多くのエアをエンジンに送り込むとともに冷却能力を高める改良された吸気口や拡張されたグリル、それら外観のディテールが、溢れるパワーとダイナミクスを体現しています。デザインディテールとしてはこの他に、メイングリル用の合金製ポリッシュ仕上げファイブ・バー・デザインが新しく採用され、カーボンファイバー製のボンネット上で拡張されたパワーバルジに2つの通気口が追加されたことなどが挙げられます。これらの通気口は機能的に配置され、エンジン性能と効率を最大まで高め、しかも新しく改良されたV12エンジンの高出力に貢献しています。

DBSのエアロダイナミクスは、レースで培われた空力性能を、より熟成して生まれました。カーボンファイバー製スプリッターと、新しいフロントバンパーのデザインは、幅の広い車体の周辺にエアを送ることができます。エアロダイナミクスチームはモデリングチームと密に協力しあい、高速走行時に固有の安定性が得られるよう、DBSの表面とフォルムを仕上げていきました。

フロントとリアのトレッドが広がったことで、ハンドリング性能が改善され、車にパワフルな印象を与えています。広がった幅に合わせるため、ウイングの表面は形を整えられ、より硬いラインで仕上げられました。これにより、車の力強さとパワーを強調、低くなった座席は改良されたサイドシルでより印象付けられています。このサイドシルは空力性能を高め、側面に沿った空気抵抗を減らすため慎重に配置されたものです。DB4以降のすべてのDBでデザインの象徴的存在であるアストンマーティンのサイドストレーキはDBS用に再設計され、一揃いのLEDで形成されるサイドリピーターが組み込まれています。

DBSの新しいリアデザインにも、進んだ空気力学を反映した設計がなされています。ダイナミックなラインを描くリアスポイラーが、カーボンファイバー製のトランクリッドに注意深くたどられ、水平にのびるクロームのフィニッシャーが、DBSの広い車幅をより印象的に引き立てています。また、フラットなアンダートレイは車体下部表面の空力性能をさらに向上させ、これもレーシングカーから引き継がれて新しく開発されたカーボンファイバー製リアディフューザーへと連なります。これによりリアの下部に低圧エリアが生まれ、大型で無粋な外付けのスポイラーを必要とせず効率的に揚力を減らし、高速安定性を高めます。この新型のワンピースディフューザーには、DBS独特の大型のツインエグゾーストパイプも組み込まれています。

DESIGN – INTERIOR

快適性と機能性、伝統的なクラフトマンシップに触れる喜びと現代的な先進素材、ディテールに注意深くこだわりながらそれらの要素を融合させたアストンマーティンのインテリア。そのポリシーはDBSでもしっかりと証明されています。すべてのアストンマーティンに共通する、優れた機能性、快適性、革新を追求しながら、ドライバーオリエンテッドなインテリアデザインを最も重要な要素として訴求しています。

見せかけたり、飾り立てたりすることなく、厳選された素材を誠実に使用するというアストンマーティンのこだわりを、DBSのインテリアはまさに現しています。重量軽減のため軽量素材が至るところで使用され、数キログラムを軽くするために、例えば、ドアハンドルはカーボンファイバー製、カーペットはより軽量の繊維で織り上げてあります。また、キャビンに張り込まれた専用セミアニリンレザーは、重量を減らすとともに、優美な感触と独特の芳香を醸し出しています。

新しいセンターコンソールのメタリック仕上げと調和をとるために、ギアノブにはポリッシュ仕上げの合金を用いました。インストルメントクラスターは、ダークグラフィットの背景に白数字を用いてデザインされ、視認性に優れています。ツインステッチの模様が、特徴的なデザインとしてインテリア空間全体を演出しています。この並行するステッチラインは、今も続くアストンマーティンの伝統であるクラフトマンシップの証でもあります。ステアリングホイールにも、ツインステッチが上部中央にディテールマーカーとして施されています。

2シーターのDBSには、それぞれのシート後部に2つの広い収納スペースを設定しました。オプションとして、CD、地図、ガイドブックなどのための特別な収納部が付いたユニークなハンドメイドの「サドル」もご用意しています。後部のトランスミッショントンネルをまたいで設置されているサドルは熟練した鞍職人の手によって作られており、軽量で耐久性に優れ、さらに優雅さと実用性を兼ね備えています。

DBSには10ウェイの電動調節が可能なスポーツシートが装備されており、美しいセミアニリンレザーとアルカンタラでツートーン仕様に仕上げられています。背もたれ部分にはDBSのロゴが刺繍され、特徴的なツインステッチが施されます。

オプションとして、DBSには特別に開発された軽量シートを取り付けることも可能です。カーボンファイバーとKevlar®繊維の複合構造を特徴とするこのシートは、モータースポーツや航空業界に製品を供給しているサプライヤーによって製造され、その後アストンマーティンのゲイドン工場において手作業で仕上げられます。Kevlar®の層をカーボンファイバー2層間に挟みこむ構造のこのシートは、着座面がレザーとアルカンタラでトリミングされますが、シート裏面は耐久性を高めるためにラッカー塗布したカーボンファイバーが露出したデザインとなります。

Kevlar®とカーボンファイバーの組み合わせにより、シートの構造は2.5 mm~3 mmと信じられないほどスリムになり、トリミングされたシートでは、合計20kgの重量が削減、大幅な重量低減に繋がりました。このシートは固定構造になっていますが、シートの高さと前後シート位置スライド調節が可能です。

DBSの始動シーケンスは、伝統とハイテクノロジーの、まさにドラマティックな融合です。イグニッション ECU (Emotion Control Unit) は、切削後すばらしい触感に磨き上げられたサファイア製で、ステンレススチールのインナーケースを内蔵しています。このサファイアECUは上質の腕時計や現代のスカルプチュアなジュエリーにも通じる、DBSスピリットの典型を示すものです。

ダッシュボードに搭載されたサファイア製始動ボタン中央部のドッキングステーションにサファイアECUを挿入すると、赤く点灯して始動準備の完了を知らせます。始動ボタン表面のECUフラッシュを押すと、エンジンに点火されます。ECUフラッシュを押してエンジンを停止させた後は、ECUは自動的にダッシュボードからイジェクトされます。

始動シーケンスは、まったく新しいセンターコンソールデザインによって強調されています。簡明な文字使い、新しいグラフィックス、そしてサラウンドに使われる鑄造メタルが引き締まった印象を与えます。コ

コンソール中央のクロームサラウンドを施したアナログ時計の両側には、エアコンシステム用に、ソリッドな旋盤仕上げを施されたアルミニウムの2つのロータリーコントロールが配されています。その下部には同じくアルミニウムフィニッシュの4方向+プッシュスイッチが配され、Bluetooth電話接続、衛星ナビゲーション機能が一体化したインテリジェントオーディオシステムを、直感的な操作でナビゲーションできます。

Aston Martin Dolby® Pro Logic II® 付き700 W オーディオシステムは、最高の音質を提供するためにアストンマーティンのためだけに特別に開発されたものです。6連奏CDオートチェンジャー用のスロットはコンソール上部にあり、またMP3プレーヤー向けの接続端子は、センターアームレストの下に設けられています。DBS標準のBluetooth電話接続機能は、携帯電話のディレクトリをディスプレイ画面を通じて同期させることが可能で、10件までの通話番号履歴を表示することもできます。